

福島第一原子力発電所の状況

2015年6月22日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/22 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m ³ /h	23.8	1.0 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約2.2 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.4 m ³ /h	30.3	4.93 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.3 m ³ /h	27.5	0.24 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/22 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.5
2号機	循環冷却システム	運転中	24.8
3号機	循環冷却システム	停止中	22.8 *
4号機	循環冷却システム	運転中	21.2

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘイドラジンの注入を適宜実施。

* 循環冷却システム停止中のため、至近のデータ(6/21 11:00 現在)を記載。

[3号機]・2015/6/21 13:38～6/30 使用済燃料プール(以下「SFP」という)代替冷却系については、一次冷却系の弁点検作業のため、システムの冷却を停止(停止時間は約223時間)。SFP水温度は、6/19 16:00 現在で22.9 であり、SFP代替冷却系停止時のSFP水温度上昇率は0.103 /h、停止中のSFP水温度上昇は最大で約23.0 と評価しており、運転上の制限値65 に対して余裕があることから、SFP水温度の管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	6/19 10:40 ～ 6/21 10:28 移送実施
		集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	6/21 10:25 ～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	6/19 11:24 ～ 6/21 10:13 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/22 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	運転中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}	ホット試験中 ^{*2}	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性及び地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽(フランジ型タンク)の解体作業を開始。
- ・2015/6/20 9:00頃 発電所構内の雨水処理設備(淡水化处理RO膜装置)において、機器異常を知らせる警報が発生し、協力企業作業員が現場確認を実施したところ、同日9:30頃、同装置の配管取り合い部から水が漏れいしていることを確認。同装置を停止したことから、漏れいは止まっている。漏れいした水については、同装置下部に設置されている受け皿(鉄製)内に留まっていることから、外部への影響はない。漏れいした水は回収を行い、漏れい量は約20L。
今回の漏れいは、当該装置にて雨水を淡水化处理する過程で発生。淡水化处理RO膜装置で処理する水は、当該装置で濃縮した水に、至近のタンク堰内の雨水を加えたもの。
当該の水の至近の分析結果(採取日:6/19)は、セシウム134が検出限界値未満(検出限界値:10Bq/L)、セシウム137が検出限界値未満(検出限界値:17Bq/L)、全ベータが24,000Bq/L。
漏れいに至った原因は、当該装置B系を起動したところ、A系の装置の配管取り合い部から漏れいしたもので、当該装置からの移送時に本来開いているはずのA・B系共通の弁が閉まっていたため、締め切り運転状態となり、系統内の圧力が上昇し、配管取り合い部からの漏れいに至ったものと推定。

[1号機原子炉建屋カバー解体作業]

- ・2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。
5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタ及びモニタリングポストのダスト濃度等に、有意な変動は確認されていない。
- ・屋根パネル(計6枚)の取り外し作業を5/26頃から開始することとしていたが、原子炉建屋3階機器ハッチ開口部に設置したバルーンが、所定の位置に設置されていないことが確認され、復旧に時間を要することから、屋根パネルの取り外し作業を延期する。なお、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動は確認されていない。
建屋カバー解体作業に伴う放射性物質放出抑制対策として、開口部の面積を小さくすることで放射性物質の放出量を抑える(少なく)することを目的に設置。

[海水配管トレンチ立坑閉塞充填作業状況]

- [2号機]・2015/2/24～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。
5/27 立坑A、Dについて充填完了。
- [3号機]・2015/5/2～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。
6/12～ 当該作業に伴う海水配管トレンチ内の滞留水については、塩分濃度等を考慮しつつタービン建屋へ排水しているが、タービン建屋滞留水の塩分濃度が上昇した場合、汚染水処理に影響を及ぼすことが考えられるため、一時貯留先として1号機復水貯蔵タンク(以下、「1号機CST」という。)へ滞留水の受け入れを行う。その事前準備として、受け入れ可能な容量を確保する目的で、1号機CSTに貯留されている汚染水を1号機廃棄物処理建屋へ移送を行う。
- [4号機]・2015/4/15～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、開口部への閉塞材料の充填作業を実施中。

[地下水バイパス揚水井の状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12のサンプリングを継続実施中。

[構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏れいについて]

< K排水路排水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、港湾口連続モニタの値に有意な変動が確認されていないことから、外洋への影響はないものと考えている。引き続き、監視を継続する。

[H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上